

# こんなものを見つけたときは お知らせください

## 1 貴重な野生生物の生息・生育

兵庫県は、北は日本海から南は太平洋に及び広大な県土を有しているため、自然も変化に富んでいます。そのため、野生生物の種類も豊富で、各地に豊かな自然が残っています。しかし、開発やマニアの乱獲などにより野生生物の数が減り、多くの野生生物の絶滅が心配されるようになりました。

兵庫県では、県内で絶滅が心配される生物などを掲載した『兵庫の貴重な自然(兵庫県版レッドデータブック)(平成7年3月)』を作成し、保全に努めていますが、そのためには、そのような野生生物の生育(生息)地を把握しておく必要があります。

次のような貴重な野生生物を見つけたときは、その場所をお知らせください。

(ここに掲載しているもの以外にも多くの種が対象になっています。「自然とともに」でも順次お知らせしていきますが、全てを紹介できません。詳しくお知りになりたい方は、次の図書をご覧ください)

『ひょうごの野生動物』(監修/兵庫県、編集/(社)兵庫県自然保護協会、発行/神戸新聞総合出版センター)

『ひょうごの野生植物』(監修/兵庫県、編集/福岡誠行、発行/神戸新聞総合出版センター)

## 兵庫県における貴重な野生生物の例

### (1) 動物

#### ほ乳類

ホンドモンガ、ヤマネ、ジネズミ、カワネズミ、ツキノワグマ

#### 鳥類

ヨシゴイ、ミソゴイ、コハクチョウ、オシドリ、ミサゴ、オオタカ、サシバ、クマタカ、ハチクマ、イヌワシ、ハヤブサ、ヘラシギ、ツバメチドリ、カッコウ、コノハズク、アオバズク、ブッポウソウ、ヨタカ、ヤマセミ、カワセミ、アカショウビン、アカゲ



アオバズク

ラ、コマドリ、オオヨシキリ

**は虫類**

アカウミガメ、シロマダラ、タワヤモリ、タカチホヘビ

**両生類**

アベサンショウウオ、ブチサンショウウオ、オオサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ダルマガエル

**淡水魚類**

オヤニラミ、ニッポンバラタナゴ

**昆虫**

ベッコウトンボ、ヒヌマイトトンボ、ハッチョウトンボ、ギフチョウ、オオムラサキ、オオウラギンヒョウモン、ヒョウモンモドキ、ウスイロヒョウモンモドキ、キダラルリツバメ、クロツバメシジミ、ヒサマツミドリシジミ、タガメ、ヒメタイコウチ、ヒメハルゼミ、ゲンゴロウ、ダイコクコガネ、オオクワガタ

(2) 植 物

**双子葉植物**

オニバス、カザグルマ、オキナグサ、バイカモ、イワレンゲ、サラサドウダン、クリンソウ、サクラソウ、イヌセンブリ、ムラサキセンブリ、ガガブタ、アサザ、チョウジソウ、オチフジ、ウンラン、タヌキモ、フジバカマ

**単子葉植物**

エビネ、ナツエビネ、キエビネ、サルメンエビネ、クマガイソウ、マヤラン、サギソウ、フウラン、ウチヨ



シロマダラ



クロツバメシジミ



オチフジ

ウラン、カワツルモ、シバナ、ユキモチソウ、ヒメユリ、ヒメシャガ、ザゼンソウ、ミズバショウ

#### シダ植物

マツバラシダ、ミズニラ、タキミシダ、デンジソウ

#### せんだい ちい 蘚苔・地衣類

スギミズゴケ、ウロコミズゴケ



クマガイソウ

## 2 身近な生き物の生息・生育

アカマツ林やコナラ林といった身近な里山や、集落地の近くにあるため池などは、昔から薪や炭の材料や灌漑用の水源として利用され、人々の生活と深いつながりの中で成り立ってきました。

このような身近な自然や季節の移り変わりを知らせるふるさとの自然の風景は、生活にうるおいとやすらぎを与えるものとして、快適な生活をおくる上でかけがえないものです。

しかし、以前はどこにでもあった身近な自然も、農業の近代化や、都市化の進展などによって急速に減少し、人々の生活の場から遠ざかりつつあり、その保全が問題になってきています。

よい自然が残っている目印となる次のような生き物を身近な場所で見つけたときは、お知らせ下さい。

### 身近な生き物の例

#### リス

主に樹上生活をし、大木のうろや枝のまたの部分に木の皮を集めて巣を作るため、リスがいることは自然の豊かな林が残っている証明になります。

地上に、松笠をかじって芯だけになったものや、ドングリの皮などが散らばって落ちているのが見つければ、そこにリスがいたことがわかります。



リス

### モリアオガエル

山地に住む日本固有のカエル。樹上生活をし、池のほとりの木の枝に大人のこぶし大の白い卵塊を産みつけることが有名です。

卵がかえると、オタマジャクシは池の中に落ちて、水中で生活します。

このような特殊な生活をするため、自然の豊かな池のまわりにしか生息できず、近年、減少してきています。



モリアオガエルの卵塊らんがい

### メダカ

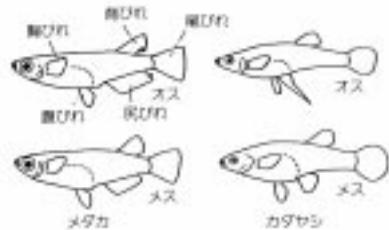
ため池や川水路などの浅いところに生息しています。

以前はどこにも見られた魚ですが、ため池などの消滅と共に、近年都市部では激減しています。

かわりに、アメリカから移入されたカダヤシが、生息環境の変化に強いいため、生息域を広げています。

メダカとカダヤシは、ヒレの形で区別することができます。

### メダカとカダヤシの見分け方



### ゲンジボタル

体長10mm～20mmくらいのホタルです。

幼虫が水のきれいな河川に生息するため、水がきれいで、自然の川岸が残っている証明になります。

よく似たヘイケボタルは、水田などもう少し水が汚い環境でも生息できるほか、体長が7mm～10mmくらいと小さいことと、胸部の中央に走る縦筋の形で見分けることができます。



ゲンジボタル

## サワガニ

平地から山地にかけての谷川に生息する甲の幅が約25mm～30mmくらいのカニ。ゲンジボタルと同様、清流にしか生息しないため、自然が残っている目印になります。

淡水には、このほかモクズガニやアカテガニも見られますが、どちらも海で産卵を行うため、サワガニよりも下流に生息しています。



サワガニ